

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会
 管理牧師 中原 康 貴 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
<http://nssk-kobeshoten.org/> 口座振替 01110-2-10517

2019年2月 顕現節

聖餐式 感謝と賛美の祭儀

司祭 ペテロ 中原 康貴

現在の祈禱書が用いられるようになって、30年が過ぎようとしています。そして、早ければ2022年には新しい祈禱書が用いられることになりそうです。しかし、わたしたちは現在の祈禱書のことをどれほど理解しているのでしょうか？ 皆さんは現在の祈禱書に込められた信仰の道標に従って、どれほど日々の信仰生活を送っているのでしょうか？

現在の祈禱書と以前の祈禱書の大きな違いといえば、まず文語が口語となったということが印象的ですが、実はそれ以上に礼拝の姿勢がより原点に・使徒たちの教会に近づいたということが重要なのです。ローマで殉教した聖ジャスチンが、150年頃、キリスト教を迫害しようとする施政者に宛てた第一弁明書には、次のように書かれています。

「日曜と呼ばれる日には、町や村にすべての人々の集会があり、そこでは時間の許す限り、使徒の回想録（使徒書・福音書）や、預言

者の書いたもの（旧約聖書）が読まれる。朗読者がやめると司会者（当時は主教のみが司式説教をしていた）が語り、これらの立派な模範にならうようにわれわれをいましめ、かつ勧める（説教）。その後でわれわれは一斉に立ち上がって祈りをささげ（代禱、会衆の祈りと呼ばれていた）、前に述べたように、祈りが終わるとパンと水とぶどう酒が持ってこられ（奉獻）、司会者が同じように立ち上がって、力をこめて祈り、感謝をささげ、一同は『アーメン』をもって同意を表す（感謝聖別の祈り）。それから聖餐の食物がわけられ、一同がそれにあずかり（陪餐）、欠席者には執事の手でとどけられる。」

以上は、150年頃の聖餐式の様子です。これを目標にして、現在の祈禱書の聖餐式は構成されました。ここで注目したいのは、司式者が聖餐式を献げ、会衆はそれに受けるという姿ではなく、会衆も司式者と共に聖餐式を献げているという姿です（文語の祈禱書

は前者に近い）。特に、聖ジャスチンの時代には会衆の祈りと呼ばれた代禱が、司式者の感謝聖別の祈りと対となっていたことが分かるでしょう。

今回、1月から3月まで毎週司式者が変わることをきっかけに、代禱は信徒がお献げすることになりましたが、本当は昇天教会の聖餐式が聖ジャスチンの時代のようなことになることを、信徒の祈りが司式者の感謝聖別の祈りと対を成すことを願ってのことです。

司式する聖職者が力を込めて熱心に祈ることは当たり前です。しかし、その祈りを奮い立たせるような信徒の祈りがあると、聖職は益々力が入るものです。そして、そのような昇天教会の聖餐式は自然と「ちょっと、来てみませんか？」と誘わずにはおれなくなるのではないのでしょうか？ いえ、必ずそうなります。何より、そのような聖餐式に毎週出席できることが、どれほど皆さんにとって喜びとなることでしょうか。

聖餐式はギリシャ語でユーカリスト（感謝）と呼ばれていました。昔の人々は命じられて聖餐式を献げていたわけではありません。そうせずにはおれなかったのです。新たな祈禱書ができる前に、まずは現在の祈禱書を活かした礼拝をお献げ致しましょう。

定例集会

日 午前10時30分 聖餐式・説教
 水 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 （ご奉仕をお願いします）

管理牧師 司祭 ペテロ 中原康貴 連絡先
 〒651-0068 神戸市中央区旗塚通6-3-2
 TEL & FAX 078-221-5487